

鳥居とり篤治郎とくじろうのの生涯しやうがい

京都きよとライトハウスの創そ立り者つしや

幼おいころに目めが見みえなくなつた篤治郎とくじろう
「思おもいっきり本ほんが読よみたい！」といいう気き持もちにまっしぐら
点てん字じ図ず書しょ館かんをつくり、ライトハウスと名な付づけま



写真でたどる 篤治郎の歩み



母と父と篤治郎



少年時代の篤治郎



京都市立盲啞院



外国から来た友人
エロシェンコ(左)とアレキサンダー(右)



ヘレン・ケラー歓迎集会



愛の鉛筆



ヨーロッパで開催された
会議に参加する篤治郎



篤治郎と伊都、結婚



きょうと とうりつしゃ
京都ライトハウスの創業者

とり い とく じ ろう
鳥居篤治郎
の
しょう がい
生涯



1894 (明治27)年、とくじろうは京都府の北、
日本海に近い三河内(今の与謝野町)という
自然豊かな村で生まれました。



2才を過ぎたころ、目の病気にかかり
高い熱が何日も続きました。
お父さんやお母さんは、あちこちの病院に
とくじろうを連れて行きましたが
とうとう、両方の目が見えなくなってしまいました。



めがみ見えなくなったとくじろうに
お母さんは、ざくろの^み実が成ると
じゆく熟しておいしそうなのを
わざと^{えだ}枝に^{のこ}残しておきました。



それはとくじろうに^{じぶん}自分の^て手で^み実をとって
^た食べる^{よろこ}喜びを^{かん}感じて^ほ欲しかったからです。

お父さんは、とくじろうを^{いえ}家にこもらせず
^た田んぼ^{やま}や山、^{さかな}魚つりにも^つ連れ^だ出しました。
にぎやかな^{まち}町にも^い行きました。
お店の^{みせ}看板、^{かん}ぼん^{まち}町や^{ひと}人々の^{よう}様子など
^{なん}何でも^{くわ}詳しく^{はな}話しました。



それはとくじろうが^{おお}大きくなってから^{こま}困らないよう
^{はや}早くから^せいろいろな^せ世界を知って^し欲しかったからです。

こうして、とくじろうは、目が見えなくても
触り、聴き、話し、体を動かせば
いろいろなことがわかることを知り



川の中を竹馬で歩いてみたり
屋根にのぼって
すずめの巣をとったり
まわりの子どもたちと
朝から夕方まで遊び回る日々を
過ごしました。

とくじろうは6才さいになりました。

学校がっこうに入るはい年齢としです。

でも、入学にゅうがくはできませんでした。

そのころは目の見えない子こを受け入れる学校がっこうがほとんどなかったのです。

11才さいになり、

ようやく入学にゅうがくすることができました。

その学校がっこうは家いえから遠いとお京都市内きょうとしないにあったので
家族かぞくや友だちとも、仲良しなかよしのいとちゃんとも離れはな
ひとりで学校生活がっこうせいかつを送るおくことになりました。

知っているといいね!

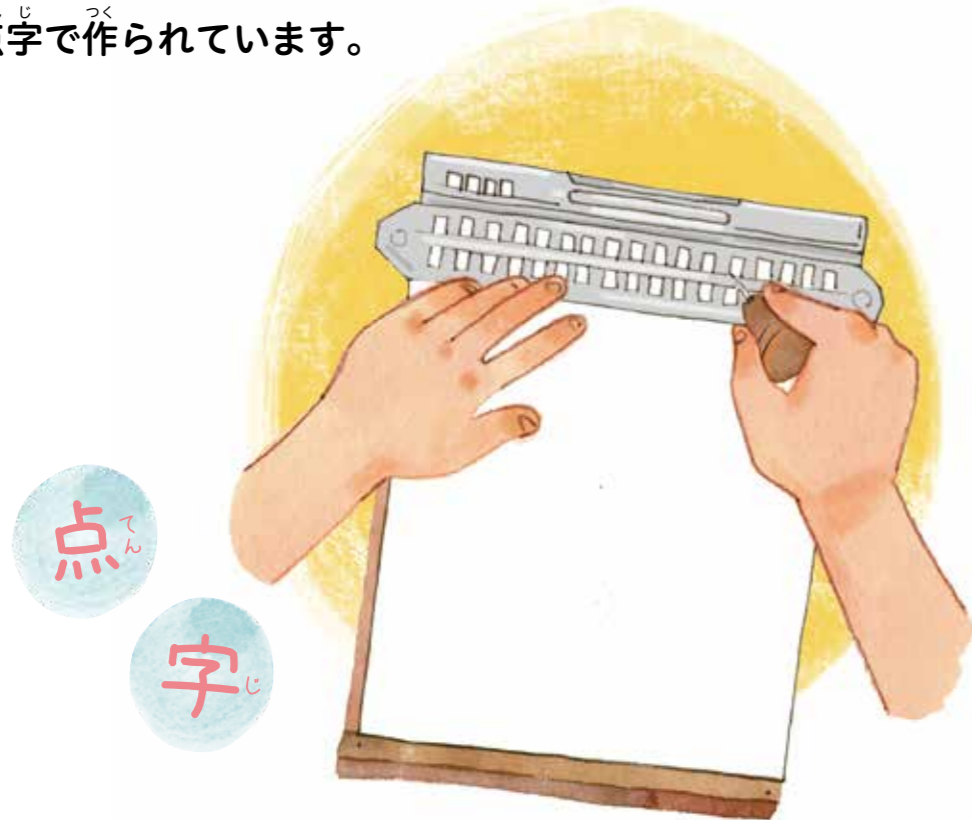


学校

とくじろうが通ったのは「京都市立盲啞院」。目の見えない子や耳の聞こえない子のために日本で最初につくられた学校です。



め み こ きょう か しよ ほん
目の見えない子どもたちの教科書や本は
てん じ つく
点字で作られています。



でも、とくじろうが入学したころは数が少なく
だれ ほん よ じぶん てん じ か なお
誰かに本を読んでもらって自分で点字に書き直したり
かあ おとうと つく おく
お母さんや弟が作って送ってくれた
てん じ ほん つか べん きやう
点字の本を使ったりして勉強しました。



知っているといいね!

てん じ
点 字

フランスのルイ・ブライユが完成させた目の見えない人のための文字。縦3点・横2点の6つの凸状の点を組み合わせたもの。触って読む。

20才さいになったとくじろうは

もっと勉強べんきょうするために

東京とうきょうの盲学校もうがっこうに通い始めます。

東京とうきょうでは外国がいこくからやってきた若者わかものや

いろいろな分野ぶんやで活躍かつやくする人ひとたち、

日本にほんの点字てんじを作った石川倉次いしかわくらじなど

たくさんの人ひとに出会であいました。

やがてとくじろうは、目めが見えないと

通かよえる幼稚園ようちえんがないこと

勉強べんきょうしたくても大学だいがくに行けいないこと…

そんな現実げんじつを変かえたいと考かんがえ

自分じぶんの進すすむ道みちを決きめます。

知っているといいね!

石川倉次

ブライユの点字てんじはアルファベットだったので日本語にほんごに合あうように研究けんきゅうし、
日本にほんの点字てんじを生うみ出した。



1916(大正5)年の春、
とくじろうは、東京の盲学校を卒業して
幼なじみのいとちゃんと結婚。
盲学校の先生になり、東京を離れます。

そして三重県の盲学校で教えながら
『ヒカリノ ソノ』という
子ども向けの点字の雑誌を
つくります。
目の見えない子どもたちに
自分でページをめくって
読める本を一冊でも多く
届けたかったからです。



その後とくじろうは、京都府立盲学校の副校長になって
幼稚部を作り、大学に進学できる道もひらきました。
そして目の見えない人々のリーダーとなり
いよいよ「思いっきり本が読みたい」という
思いの実現に向かいます。



もうじん としよ きょうと てんじ としよかん
「盲人に図書を！京都に点字図書館を！」

とくじろうはおおひとよ
とくじろうは多くの人に呼びかけ

あい えんびつ うかつどう
「愛の鉛筆」を売る活動などで

けんせつ ひつよう かね あつ
建設に必要なお金を集めます。

そして10ねんにもわたるながくろうみの
そして10年にもわたる長い苦労が実り

しやうわ ねん てんじ としよかん かんせい
1961(昭和36)年、点字図書館が完成します。

きやうと たんじやう
「京都ライトハウス」の誕生です。

知っているといいね!



あい えんびつ
愛の鉛筆

しきんあつ う えんびつ つけられた なまえ
資金集めに売られた鉛筆に付けられた名前

てんじ としよ かん
点字図書館

め ふじゆうひとたちがよみてんじろくおんのとしよつくり、かだす
施設。(現在は図書の製作・貸出だけでなく、インターネットな
どを活用してさまざまな情報を提供している。)



1955 (昭和30)年、

ヘレン・ケラーが日本を訪れます。

この時とくじろうは京都府立盲学校で

日本の目の見えない人々を代表して

歓迎のあいさつをする大役を果たしました。

世界で活躍するヘレンに

「あなたはひかりをもたらす人。

あなたは種をまく人。その力を

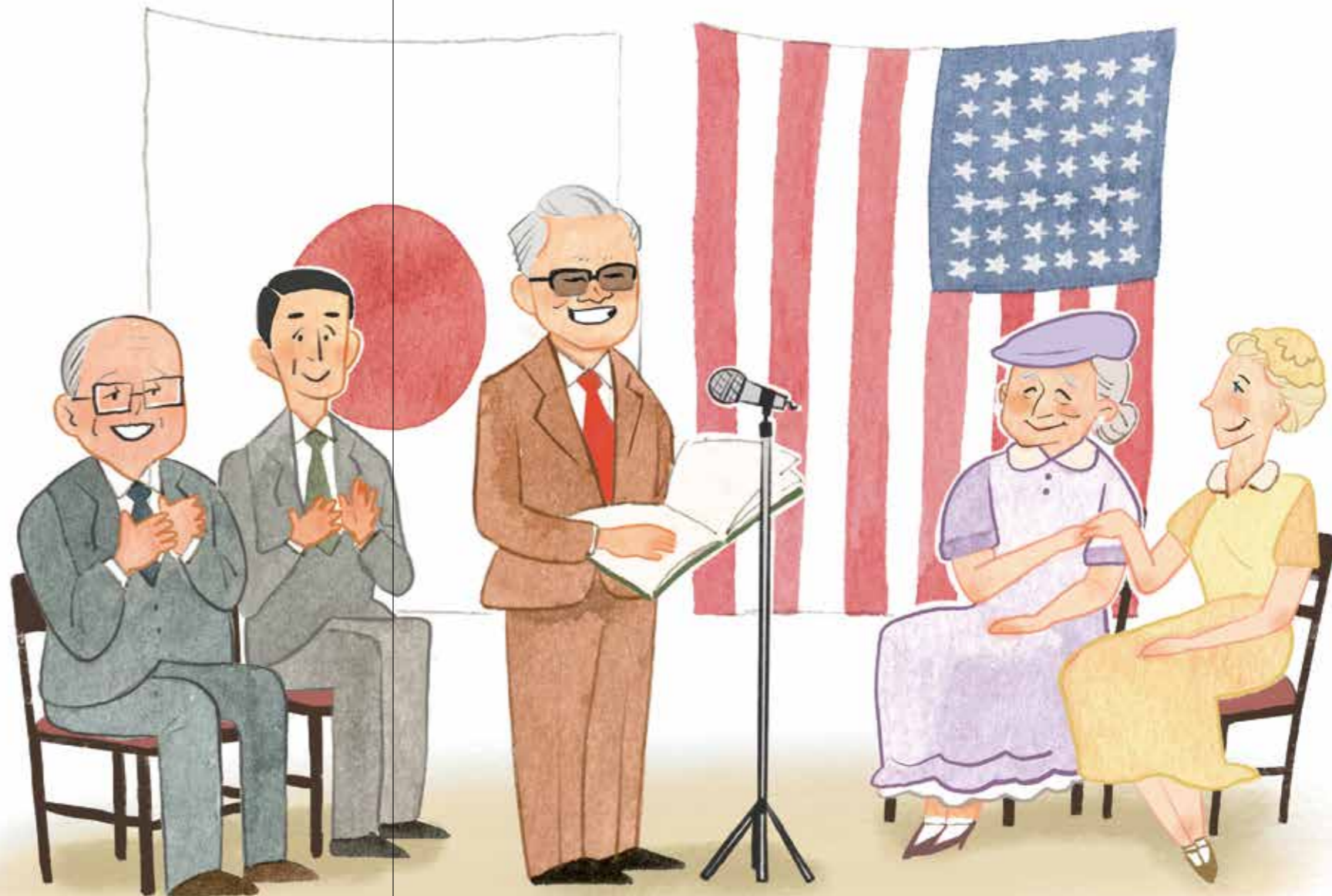
日本やアジアの盲人のために

つくしてください」と熱く語る姿が

日本はもちろん

アジアの目の見えない人々を

大いに勇気づけました。



めがみえないことは不幸なのでしょうか。

「目が見えないことは不自由だけれど不幸ではない」と

とくじろうは言い切ります。

不自由なことを

一つ一つなくしていくことで

目が見える人も見えない人も

幸せに暮らしていける。

知恵を出し、工夫しあって

そんな世の中をつくっていく。

人とのつながりを大切に

世界に目を向けて歩む。



この夢を追い続けたとくじろうは
1970(昭和45)年9月11日、
76才で生涯を閉じます。

けれども、とくじろうの夢は
京都ライトハウスの
理念として生まれ変わり
多くの人に
今日も受け継がれています。

※理念

物事を進めたり、目標などを定める
ときの根本的な考え方

もっと篤治郎のことが知りたい！



鳥居篤治郎の生涯

「坊っちゃんの夢」(岸博実著)から

1894(明治27)年、篤治郎は京都府の北、日本海に近い三河内という村の大きな絹織物屋の家に生まれました。2才を過ぎた頃、目の病気にかかります。高熱が何日も続き、両親は遠く離れた京都市内の病院にまで篤治郎を連れて行きますが、6才頃、とうとう失明します。

当時も子どもは、6才になれば学校に通い始めます。けれど、目や耳に障害があると、10人に1人くらいしか学校に行くことができず、篤治郎も11才になって、ようやく京都市内にあった盲啞院に入学できました。盲啞院ではたくさんのお話を学び楽しみ、経験します。そして「もっといろいろな世界を知りたい。深く学びたい」と考え、1914(大正3)年、東京の盲学校に進学します。

東京では、アメリカやロシアの若者を通してエスペラントを学び、新宿・中村屋を拠点に先進的な人々と交流し、日本の点字を作った石川倉次や外国の盲学校を訪ねた経験がある小西信八から直接教えを受けるなど、日本はもちろん世界から刺激をうけました。そして目が見えない子どもたちの教育の現実を変えるため「盲学校にも幼稚園を」「大学で学べるように」と理想の盲学校を目指す「日本盲学校設立趣意書」をまとめます。でも、それはすぐには叶えられませんでした。

東京の盲学校を卒業した篤治郎は幼なじみの伊都和結婚、東京を離れます。そして三重県の盲学校で子どもたちを教えながら、『ヒカリノソノ』(光の園)という子ども向けの点字雑誌を発行します。「本が読みたくても読める本がなかった」自分の少年時代を思い、一冊でも多くの点字の本を届けたかったからです。

その後、京都に戻った篤治郎は京都府立盲学校に幼稚部を作り、大学に進学するための勉強ができる道を拓くなど、かつて叶えられなかった盲学校づくりに腕をふるいます。やがて目が見えない人たちの団体や国の重要な役割を担うようになり、日本はもちろん世界を飛び回り、先進的な取組を進めます。

そして篤治郎はいよいよ、「思いっきり本が読みたい」という願いの実現に向け「京都に盲学生のための図書館を作ろう！」と立ち上がります。「愛の鉛筆運動」などの活動で資金を集め、1961(昭和36)年、点字図書館は完成。京都ライトハウスと名付けられます。ライトハウスとは灯台のことで、目が見えない人々に希望の灯りを点すという願いが込められています。

「盲目は不自由なれど、盲目は不幸にあらず」。篤治郎が唱えた名言です。しかし続いて「それならもう一度盲人に生まれてもいいかと問われるならば、それだけはおめんです。殊に日本の盲人として生まれることは、真っ平だ」と答えます。なんと深い悲しみでしょう。

確かに「いい盲学校にしたい」「本を読みたい」という願いは形になりました。けれども日本ではまだまだ目が見えない人たちに厳しい現実が残されています。

ひとつひとつの〈不自由〉を〈自由〉にかえていく。この国を誰もがもっといきいきといのちをたのしめる国にしたい。篤治郎の悲しみに思いを馳せ、そして、それでもチャレンジし続けた夢を私たちも継いでいこうではありませんか！

ねん びょう 年表でたどる鳥居篤治郎の生涯

せいれき げんごう 西暦(元号)	とくじろう 篤治郎のできごと	しかくしょうがい かん しゃかい うご 視覚障害に関する社会の動き
1854	ルイ・ブライユの点字がフランスで目の見えない人の文字と正式に認められる	
1880	ヘレン・ケラーが生まれる	
1894 (明治27)年	誕生 8月12日、京都府三河内(今の与謝野町)で生まれる	
1897 (明治30)年	2才 目の病気になり、6才頃には両方の目が見えなくなる	
1905 (明治38)年	11才 京都市立盲啞院(今の京都市立盲学校)に入学	
1906 (明治39)年	12才 アメリカのニューヨークに世界ではじめてライトハウスがつくられる	
1914 (大正3)年	20才 京都市立盲啞院を卒業、 東京盲学校(今の筑波大学附属視覚特別支援学校)に入学	
1916 (大正5)年	22才 東京盲学校卒業、伊都和結婚	
1917 (大正6)年	23才 大学進学を目指したが叶わず	
1919 (大正8)年	25才 「日本盲学校設立趣意書」をまとめる	
1920 (大正9)年	26才 三重盲啞院(今の三重県立盲学校)の教員になる 翌年から子ども向け点字雑誌『ヒカリノ ソノ』発行	
1922 (大正11)年	28才 『点字大阪毎日』新聞創刊	

せいれき げんごう 西暦(元号)	とくじろう 篤治郎のできごと	しかくしょうがい かん しゃかい うご 視覚障害に関する社会の動き
1929 (昭和4)年	35才 京都市立盲学校の教諭となる	
1935 (昭和10)年	41才 岩橋武夫が大阪にライトハウス(今の日本ライトハウス)を創立 ※創業は1922(大正11)年	
1940 (昭和15)年	46才 本間一夫が東京に日本盲人図書館(今の日本点字図書館)を創立	
1947 (昭和22)年	53才 学校教育法で盲学校・聾学校が義務化される	
1948 (昭和23)年	54才 京都市盲人協会結成、初代会長に就任	
1949 (昭和24)年	55才 身体障害者福祉法が制定される(視覚障害者を代表して意見を具申) 同志社大学が日本で最初に点字受験を認める	
1951 (昭和26)年	56才 京都府立盲学校副校長となる 「愛の鉛筆」運動開始	
1954 (昭和29)年	60才 世界盲人福祉協議会出席(フランス)	
1955 (昭和30)年	62才 ヘレン・ケラーが京都府立盲学校を訪問	
1961 (昭和36)年	67才 京都ライトハウス創立 館長に就任 京都市名誉市民受章	
1970 (昭和45)年	76才 9月11日、永眠(9月24日京都市が公葬挙行)	
1994 (平成6)年	妻 伊都 永眠(享年101才)	

京都ライトハウスの創業者

鳥居篤治郎の生涯



2019(令和元)年9月11日 発行

監修 岸博実

制作 社会福祉法人京都ライトハウス
情報ステーション(点字図書館)
情報製作センター(点字出版所)

イラスト 岡山隆俊

編集 京都精華大学 京都国際マンガミュージアム 事業推進室

発行 社会福祉法人京都ライトハウス
〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町11
TEL 075-462-4400 FAX 075-462-4402

※この絵本は、社会福祉法人京都ライトハウス後援会のご支援を受けて制作いたしました。

ライトハウスとは灯台のこと^{とうだい}

この名前には目の見えない人々に希望の灯を点すという願いが込められています
篤治郎が最初の灯を点した京都ライトハウスは、今さまざまな施設が一つになって、大きな光を放っています



京都ライトハウス本館



高齢者総合福祉センター ライトハウス朱雀



障害者支援施設 鳥居寮

もうもく ふ じ ゆう
盲目は不自由なれど、

もうもく ふ こう
盲目は不幸にあらず

とくじろう
— 篤治郎

